

東白川村 美しい村づくり 委員会

第16回

○場所：神土ふれあいサロン

○時期：平成29年7月12日 19:00~21:00

○参加者：委員8名 ゲスト2名 行政4名

名古屋大学大学院環境学研究科 高野雅夫教授

【郡上市石徹白・明宝視察】

委員会出席者の中で視察参加者の感想をお話ししました。

(感想)

(A)

◇村内で残材がある場所を開放して、流通する仕組みを検討したい。

郡上市明宝では薪が良い稼ぎになる仕組みづくりがあった。

石徹白では様々な立場のキーマンがいて、それぞれが何かしらの団体に入り活躍している。白山神社の絵馬は当村も神道の村なので検討できる材料のひとつ。

「冒険の森」はフォレストアドベンチャーという仕組みで、当村でも考えたが一度リスクがあり断念したが、今後また検討したい。

各個人に役割を与えることによって人が係われる場の創出が出来ることを学んだ。

(B)

◇視察によって、美しい村づくり委員会の活動に対する姿勢が伝わった。

石徹白洋品店は「伝統文化」と「新しいデザイン」が融合されたお店で、パート2人の雇用を生み出していることに関心を持った。また、どの年代で新しくチャレンジしたかの事例を知り年齢に係わらず、何でも出来るのではないかと刺激を受けた。

「冒険の森」では昔ながらのものと新しいものが混在しており、そこが魅力的であった。

若い人が注目している理由は、郡上にある「ITのUターンの仕組み」「ゲス

トハウスがある」ことがひとつの要因では思った。

小水力発電は環境に意識が高い人にとってシンボリックなものがあるし、石徹白はホームページが見やすいなどPR方法が良い。小さな集落だからこそ出来る石徹白の郷土愛を育むやり方には学ぶものがあるのではと考えた。

(C)

◇石徹白では、地域で「誇り」が生まれたのではないか。それは当初苦労した小水力発電がいまや地域財源を生むまでになったこと、白山中居神社など色々なファクターの積み重ねがあって出来上がったもの。当村では「集落あるき」で宝物探しをしているが、それをどう磨き上げるかを考えていければ・・・。人口減少していく中で、地域でお金が取れる仕組みづくりをやっていききたい。

石徹白は山の収入から、現在は小水力発電でお金をとれるようになった。見た目は豊かだろうが実際の生活は厳しいし、それなりの苦労はしていると思う。生活は厳しいが、そこに楽しさがあるからやっていけるのではないか。

移住者についてはわかったが、地元の人たちについて気になった。例えば、地元土建業で働いている若者など。

村の「関係人口」をいかに増やすかと考えたときに、どのように仕組みをつくっていくか、そこを各々の地域でいかに意識的に作っていくかがポイントになる。当村の「つちのこ」についても村の「誇り」を持つ1つの要素としてなっている。こういった取り組みを続けていくことが大切。

(D)

◇昔より僻地であり白山信仰の拠点であった石徹白地区、農業、林業といったしっかりした生業がなく、現在250人まで減った現状があり、そういった逆境の中でも意欲的に活動していることに感心した。

地理的に閉鎖的にならざるを得ない状況で、移住者との温度差、価値観の違いがあるので移住者を受け入れがたい土壌があったことが推察できた。

色々な団体での地域の価値を高めて、外に売る、外に呼び込んでいく源はその地域での「主人公意識」が生まれたことによるものではないか。

苦労の末に生まれた連帯感はこちらまで続けてきたことによる成果で、現状に危機感を持ってやっているところが当村と違う。当村はまだ恵まれている。対応が後手にまわらず、先手を打てるようにしたい。

山の林地残材を自由に持って行くことが出来る仕組みづくりをやっていききたい。

石徹白との交流を続けていきたい。今回の交流で石徹白の方が歌舞伎を見に来る予定となった。移住者が地域の取り組みを学ぶといったことは多いが、地元出身者が視察に参加することは珍しいことであった。

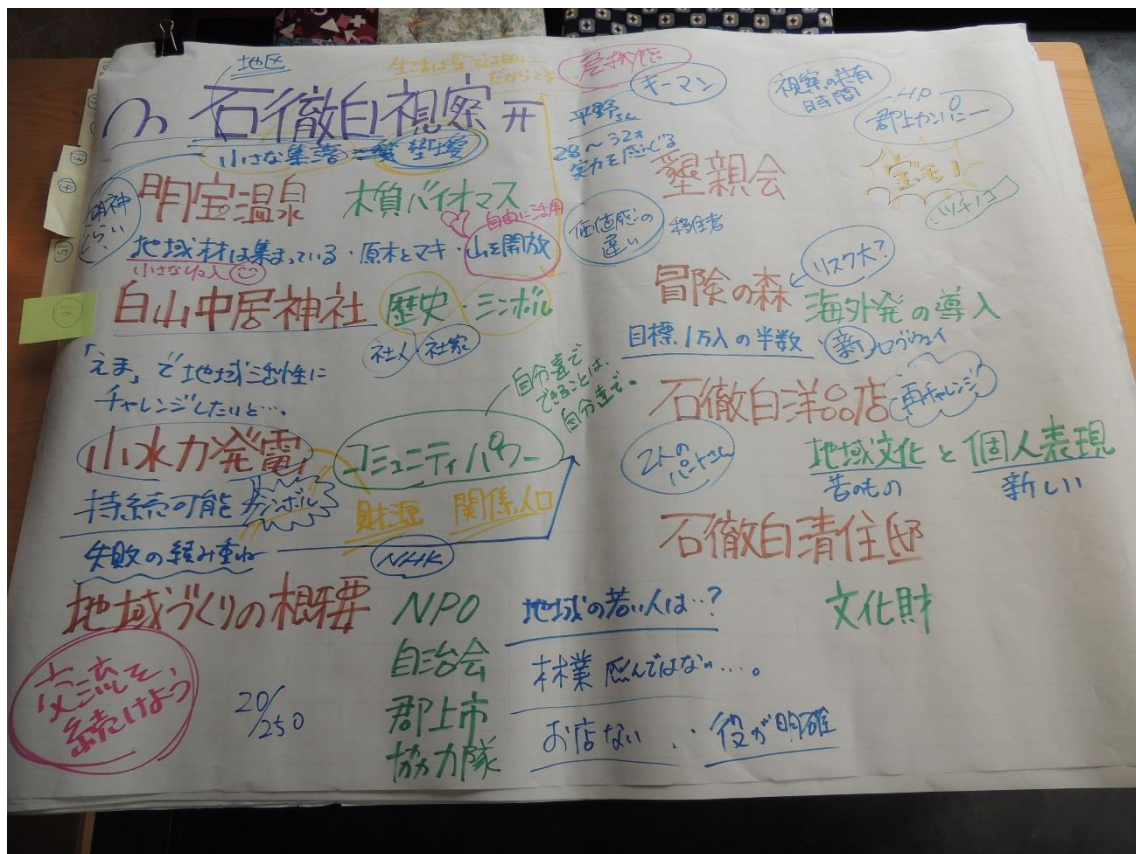
(E)

◇白鳥町中心部から石徹白までにある峠の阿弥陀ヶ滝近くにできたタイ料理屋に驚いた。この地域にはスキー場もあり、若い人が近寄りやすい雰囲気のある地域だと感じた。

石徹白洋品店は常時4～5台はお客さんが来ている人気店であった。小水力発電の立ち上げ時での地域内での踏ん張り、投げ出さずにやれた理由などをもっと詳しく聞いてみたかった。視察に行って直接話しをしないとわからない、気づかない話が多く、そこが視察の重要なところ。

(F)

◇村で今後何か作るときに、村での雇用や独自にメンテナンスが出来る様な仕組みにしていきたい。



【集落あるき】

〈大明神〉

7月16日開催の大明神集落あるきについて打ち合わせを行いました。

【名古屋大学大学院修士研修】

7/22 の陰地集落あるき及び吉村屋での懇親会の打ち合わせを行いました。

【夏祭り出店】

8月14日に行われる夏祭りについて検討しました。

前回の委員会で話の出た「巨大つちのこ」を長谷川さんが中心で製作しており、当日、「巨大ツチノコ」を委員で担ぐこととなり、今後について話し合われました。

◇現在、ツチノコの骨組みは完成していて、大きさは5m規模になるとのこと。材料としてシーツ、朴葉、しめ縄等を委員で準備し、8月11日～13日の夏祭り前に平サロンにて製作を行い、当日の動きの確認を行った上で本番に望むこととなりました。

ブースについては、美しい村づくり委員会で2ブース借りることとなりました。ブースの内容については各自の持ち寄り商品、マッサージなどが検討されました。

